

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします



おうひ

うつくしい王妃

エステル



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: Janie Forest

かいさくしゃ

改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

www.M1914.org

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

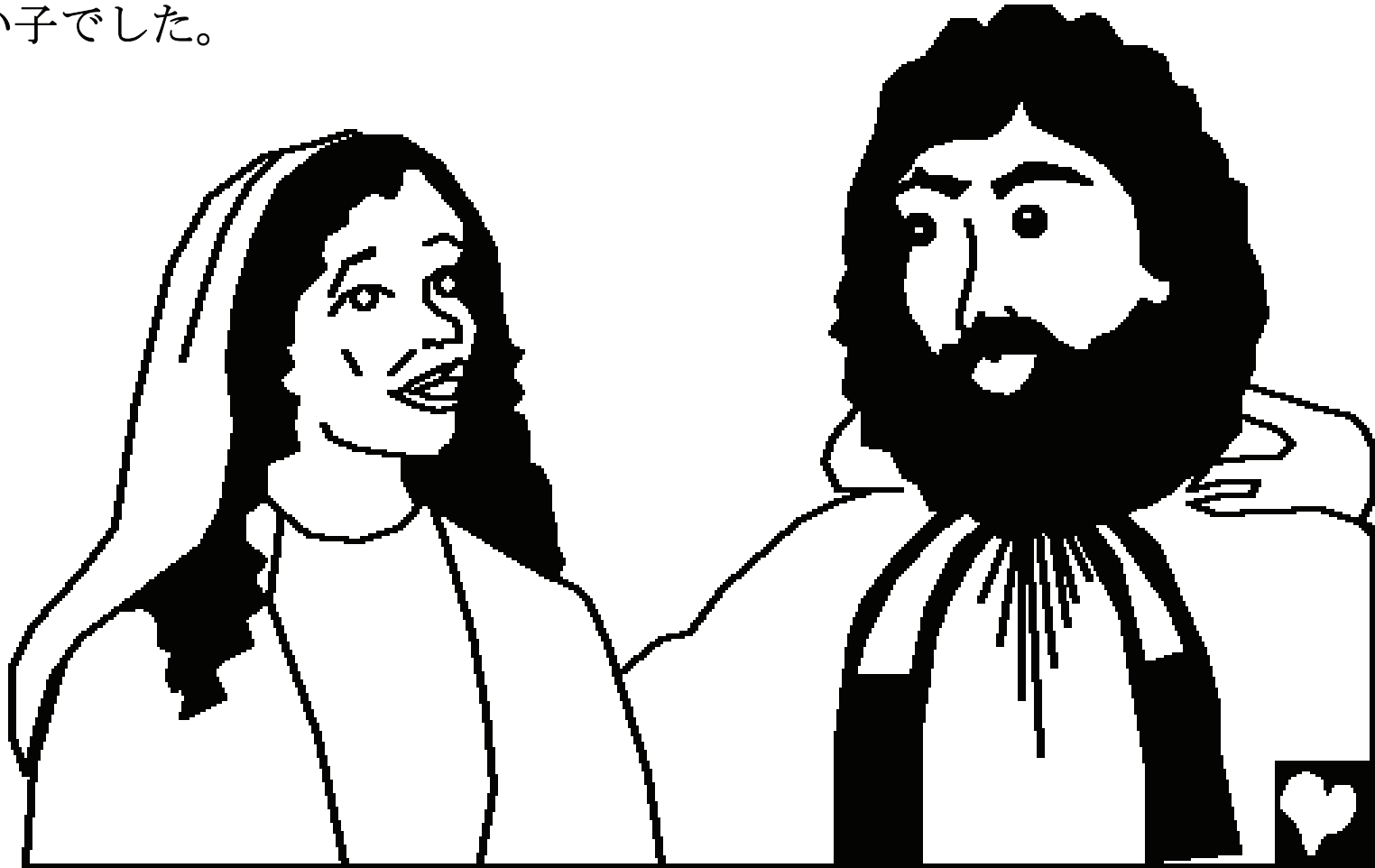
Canada

©2007 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。



むかしのこと、エステルという名前のうつくしい女の子がいました。エステルのお父さんとお母さんは、早く亡くなってしまい、それからはかの女のおじさんモルデカイが、エステルを育てるようになりました。エステルは、まるでおじさんのほんとうのむすめのように！おじさんをそんけいし、言うことをよく聞くととてもよい子でした。





エステルは、ペルシアに住んでいました。でもね、ペルシア人では、ありません。ユダヤ人です。かの女のずっとずっと前の、おじいさんやおばあさんたちは、せん争のとらわれ人として、ペルシアにつれて来られたからです。エステルの時代には、たくさんのユダヤ人が、ペルシアに住んでいました。



あるとき、ペルシアの王さまは、世界中の高位おう せかいじゅう たか くらいについている人たちをあつめ、

大きな大きなえん会おお おお かいをひら

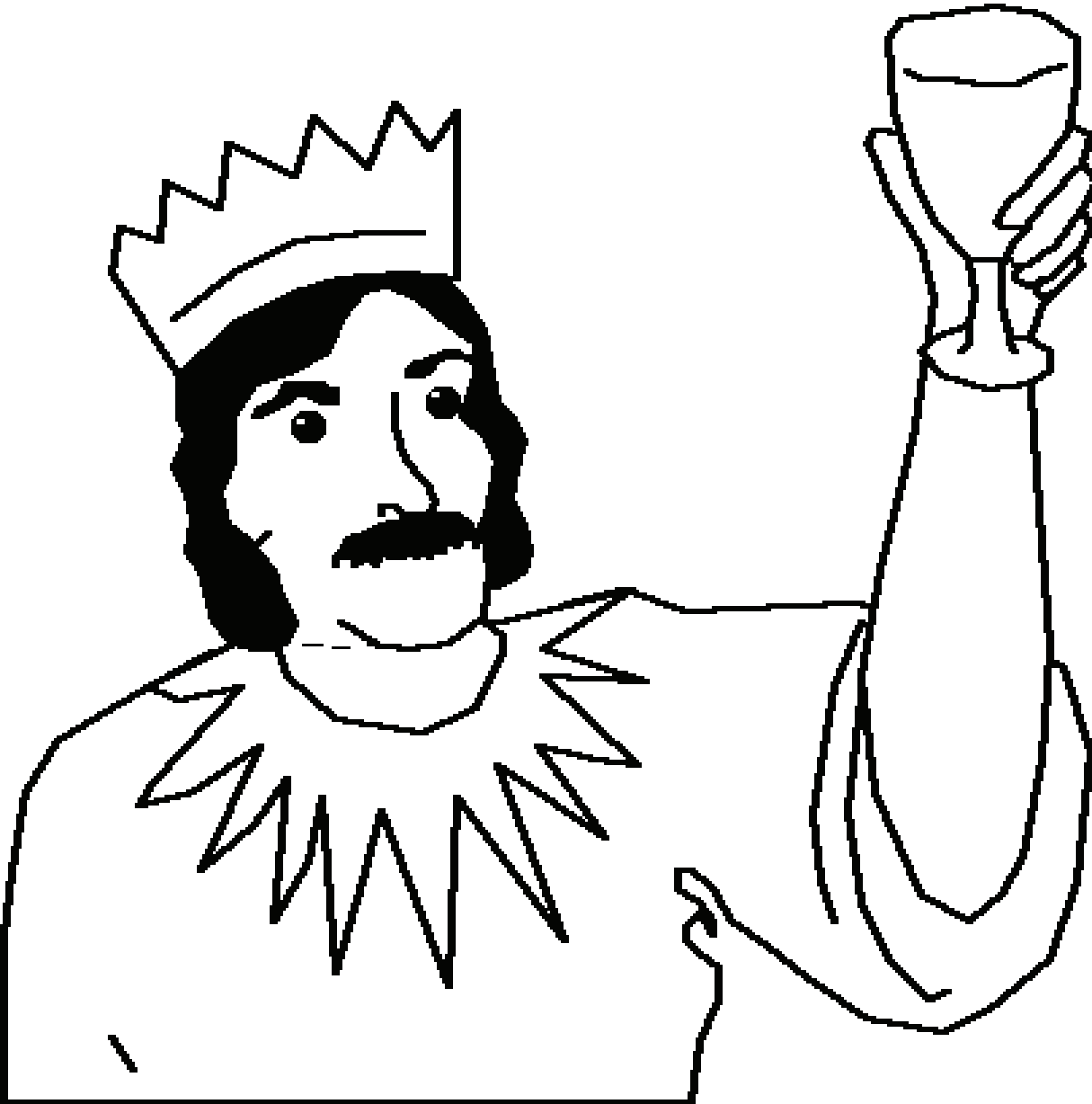
きました。男おとこの人たちは、
みんなあつまって、ごちそ

うたを食べていましたよ。

女おんなの人たちもまた、
ずっとはなれたところでワ

シュティ王妃おうひといっしょに、

えん会かいをしていました。



そのとき、^{さけ}お酒によった^{おう}王さまが、ワシュティにめいれいして、
い
言いました。「ワシュティよ、

^{じょおう}女王のかんむりをかぶり、
あなたが、どんなにうつく

^みしいか、みんなに見せて
やりなさい。」でもね、

^{おうひ}ワシュティ王妃は、
ことわったのです。

^{おう}「いいえ、王さまそれ
はできません。」



おんな ひと じぶん おっと
女の人、自分の夫を
うやまい、したがわなけれ

ばなりません。王さまは、

このことを、みんなに知らせるために、

法のきまりどおり、ワシュティ王妃の

かんむりを取りあげてしまいました。

いまはもう、ワシュティは、王妃では
なくなりました。



さて、あたらしい王妃さがしが、
はじまりました。この国のたくさ
んのうつくしい少女の中から、王さ
まは、いったいだれを自分の王妃にえら
んだのでしょうか。そう、エステルです。
エステルが王さまのおくさんに、えらばれ
ましたよ。王さまは、エステルのあたま
に、王妃のかんむりを、かぶせました。
そのとき、エステルは自分は、
ユダヤ人であることを、王さまに言
いませんでした。どうしてって、
おじさんモルデカイが、
言わないようになって
言ったからです。



おじさんモルデカイは、エステルがどうしている

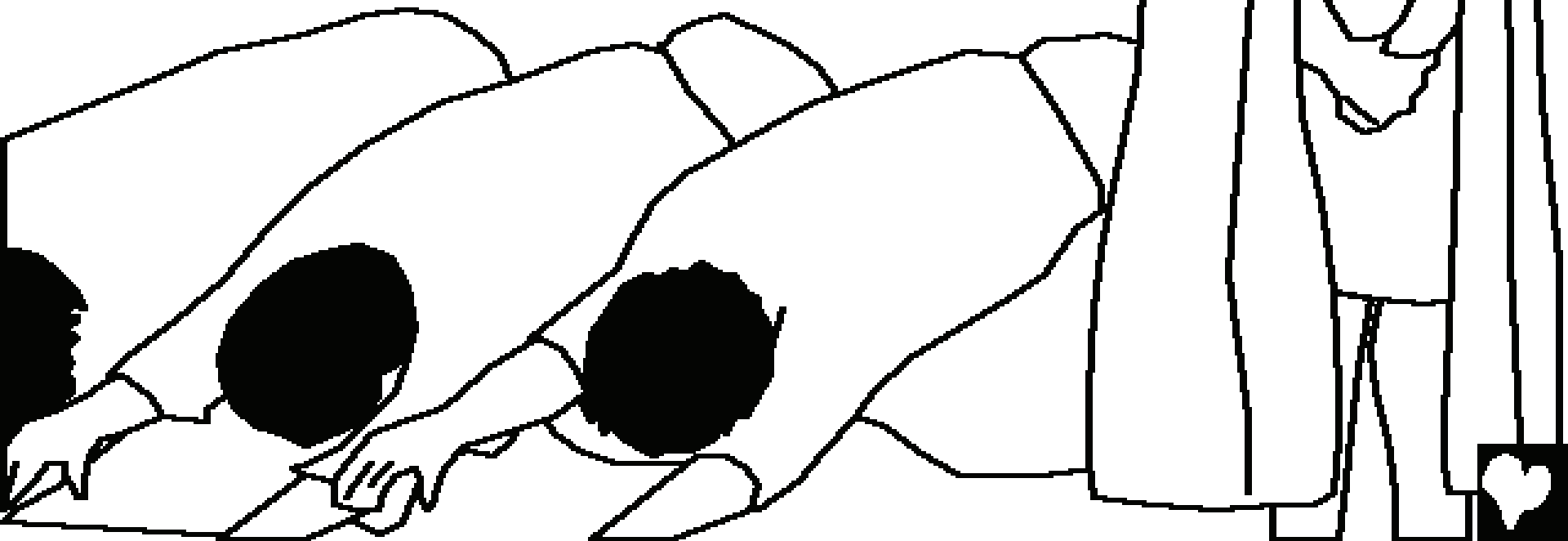
^{おも} ^{きゆう} ^い ^{ぐち}
んだろうと思い、宮でんの入り口を、
^{いちにち} ^い ^き
一日じゆう行ったり来たり・・・。



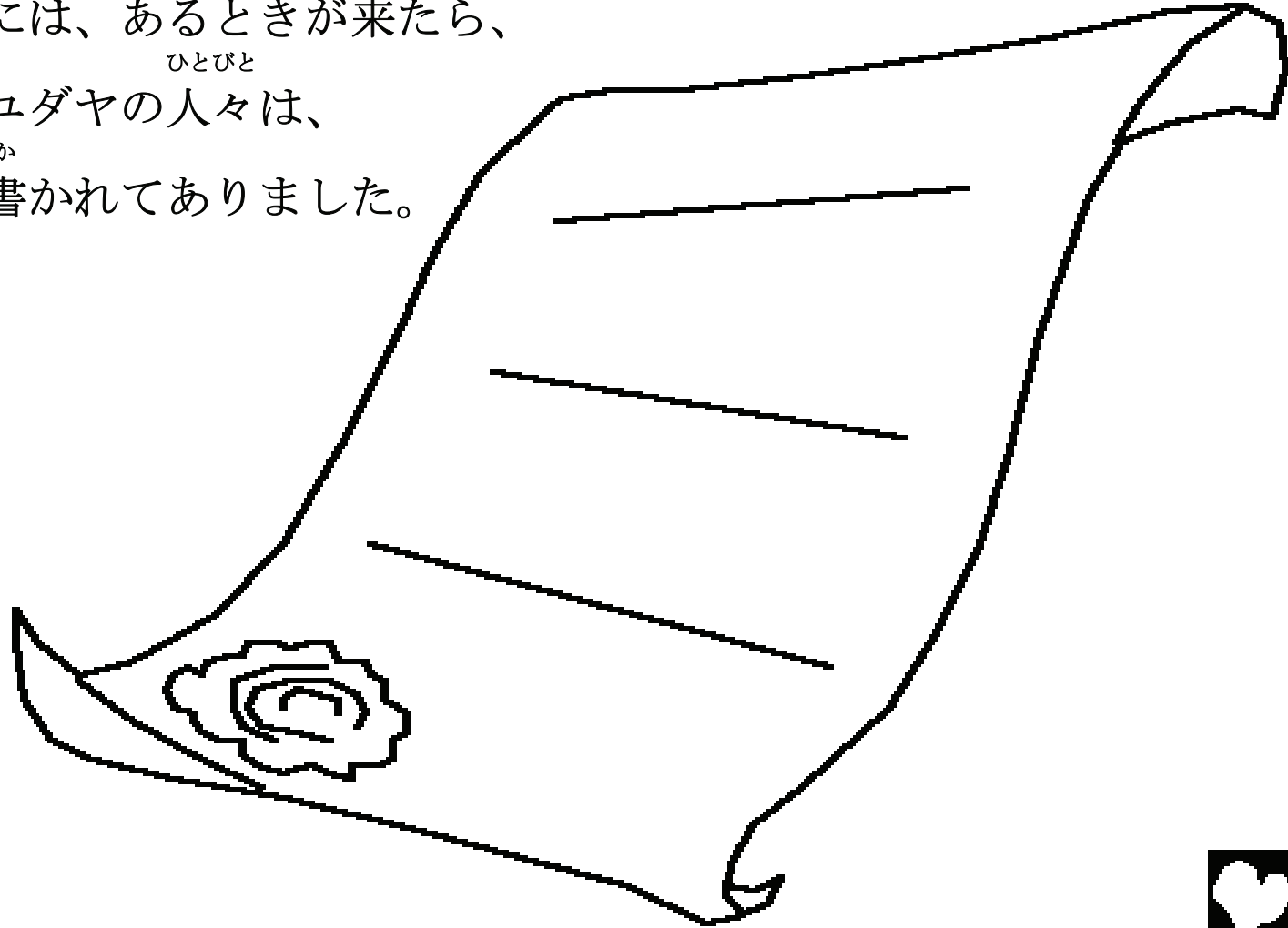
^ひ ^{きゆう}
ある日、かれは、宮でんで
^{ふたり} ^め
はたらいている二人の召しつかいが、
^{なに}
ヒソヒソと何やらはなしているのが、
^き ^{おう}
聞こえてきました。どうやら、王さまを
^{ころ} ^{けいかく} ^{おう}
殺そうと計画しているようです。王さまの
^{いのち} ^{おも}
命をすくわなければと思ったモルデカイ
^し
は、すぐ、このことを知らせたのです。
^{ふたり} ^め
それで、その二人の召しつかいは、しば
^{くび}
り首になってしまいました。このことで、
^な ^{おう}
モルデカイの名まえは、王さまのきろくの
^{ほん}
本にのせられるようになりました。



おう ちから よ
王さまのつぎに、力をもっていたのは、ハマと呼ばれる
かね おとこ ひと
お金もちの男の人でした。みんなは、ハマがおおるたび
に、あたまを下げておじぎをしましたよ。あれっ、みんな
ひとり
でしょうか？いえいえ、一人だけおじぎしませんね。その
ひと じん い かみ
人は、モルデカイ。ユダヤ人のかれは、ただ生ける神さま
にだけ、あたまを下げて礼拝しました。



ハマンは、モルデカイが^{だい}大きらいです。そこで、かれは、モルデカイとペルシ
アにいるユダヤ人^{じん}ぜんぶを、^{ころ}殺してしまおうと^き決めました。なんてひどいやつ
でしょう！このひどい悪人^{あくにん}ハマンは、王^{おう}さまを^{ほう}だまして、ある法にサインさせ
ましたよ。その法^{ほう}には、あるとき^きが来たら、
この国^{くに}のすべてのユダヤの人々^{ひとびと}は、
^{ころ}殺されるだろうと^か書かれてありました。





ほう
ほんとうに、ひどい法
じん
ですね。ユダヤ人もペルシ
じん
ア人も、なげきかなしみまし
た。でも、みなさん、おぼえて
かみ
いますか？神さまは、エステル
おうひ
を王妃にされたでしょう。たし
ひと
か、エステルはユダヤの人でし
じぶん
たよ。エステルは、自分がユダ
じん
ヤ人っていうことを、王さまに
おう
ひみつにしておくつもりでしよ
し
うか。それとも、死をかくごし
ひとびと たす
て、ユダヤの人々を助けようと
するのでしょうか。



かみ

ほうほう

そのとき、神さまがエステルに、うまい方法をおしえてくださいました。

かみ

い

かい

おう

まね

エステルは、神さまが言われたとおり、えん会をひらき、王さまとハマンを招き

かい

おう

ましたよ。そのえん会で、王さまはエステルに、やくそくしました。「なんでも、あなたのぞむことを、かなえてあげよう！」ってね。そこで、エステルは

おう

かい

き

「それでは、王さま、ハマンといっしょに、またえん会に来ていただけますか。

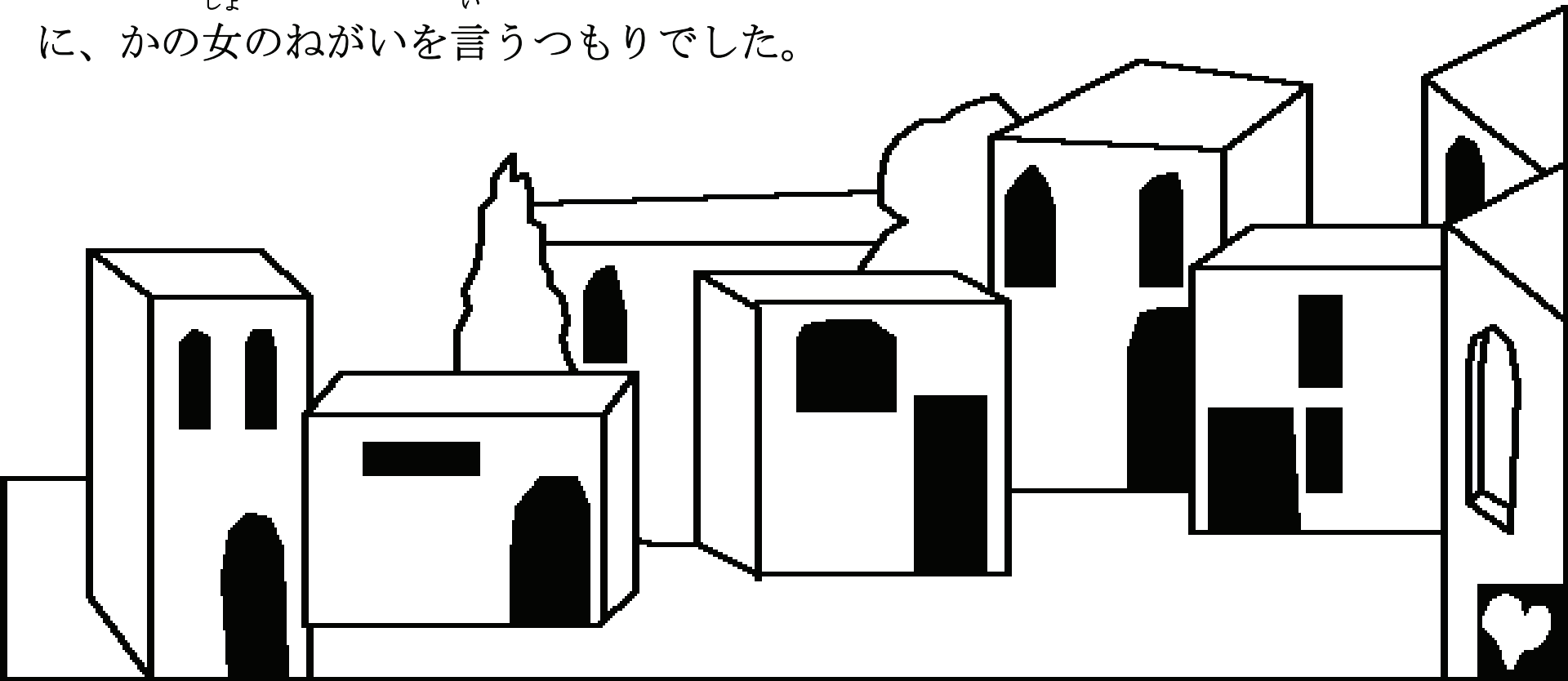
おう

あしたですけれど・・・」と、こたえました。そのときに、エステルは王さま

じょ

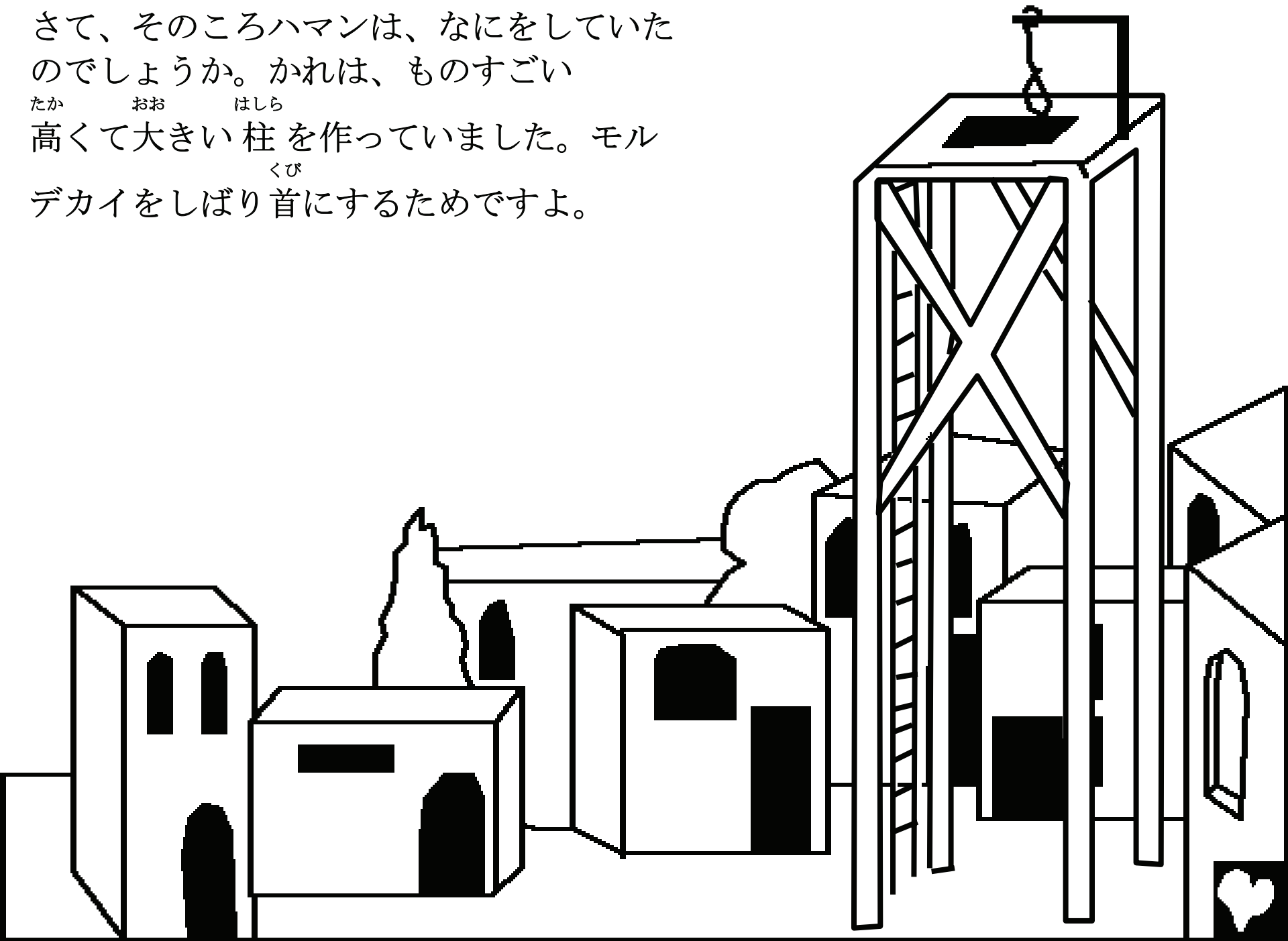
い

に、かの女のねがいを言うつもりでした。



さて、そのころハマンは、なにをしていた
のでしょうか。かれは、ものすごい

たか おお はしら
高くて大きい柱を作っていました。モル
くび
デカイをしぼり首にするためですよ。



そのよる、王さまは、なんだか眠れません。そこで、王さまのきろくの本を、

あけてよみながら、気がつきました。モルデカイは、
自分の命を助けてくれたのに、何ひとつほうびを、

もらっていなかったのです。つぎのあさ、王さまは、
ハマンにたずねました。「王をよろこばせた人

に、いったいどんなことをすれば、いいの

だろうか。」それを聞いたハマンは、

大よろこび！ だって、

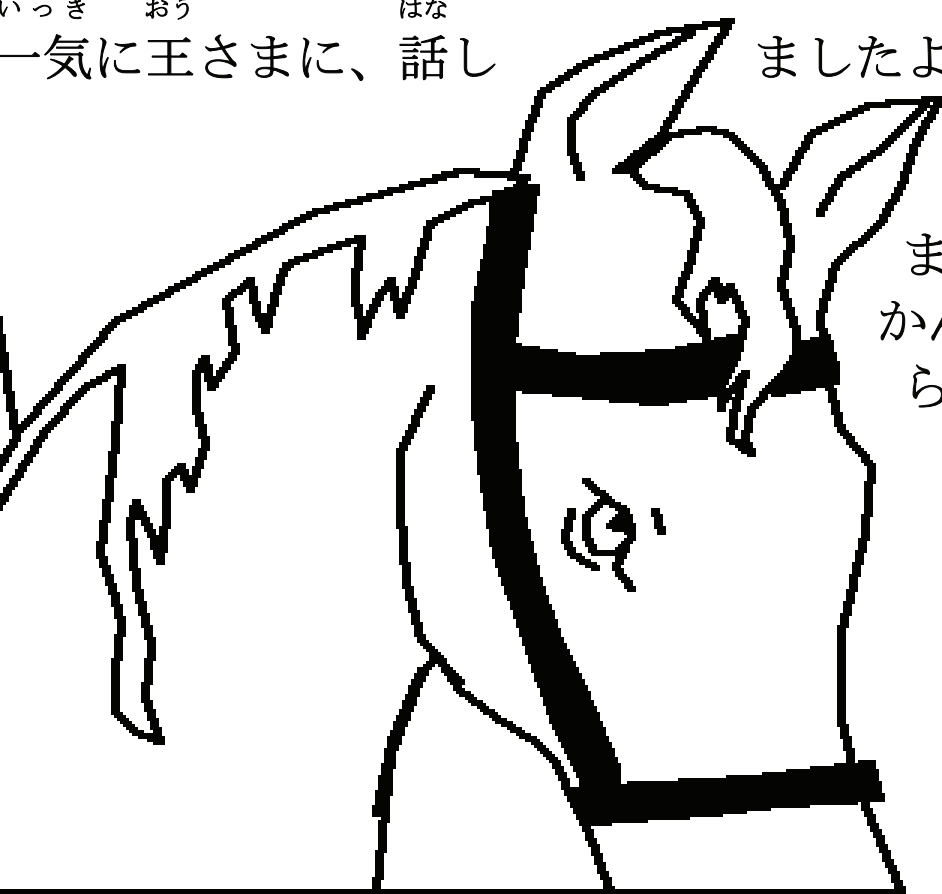
ハマンは、こう思ったから

です。王さまは、自分のことを
言ってくださってるんだってね。



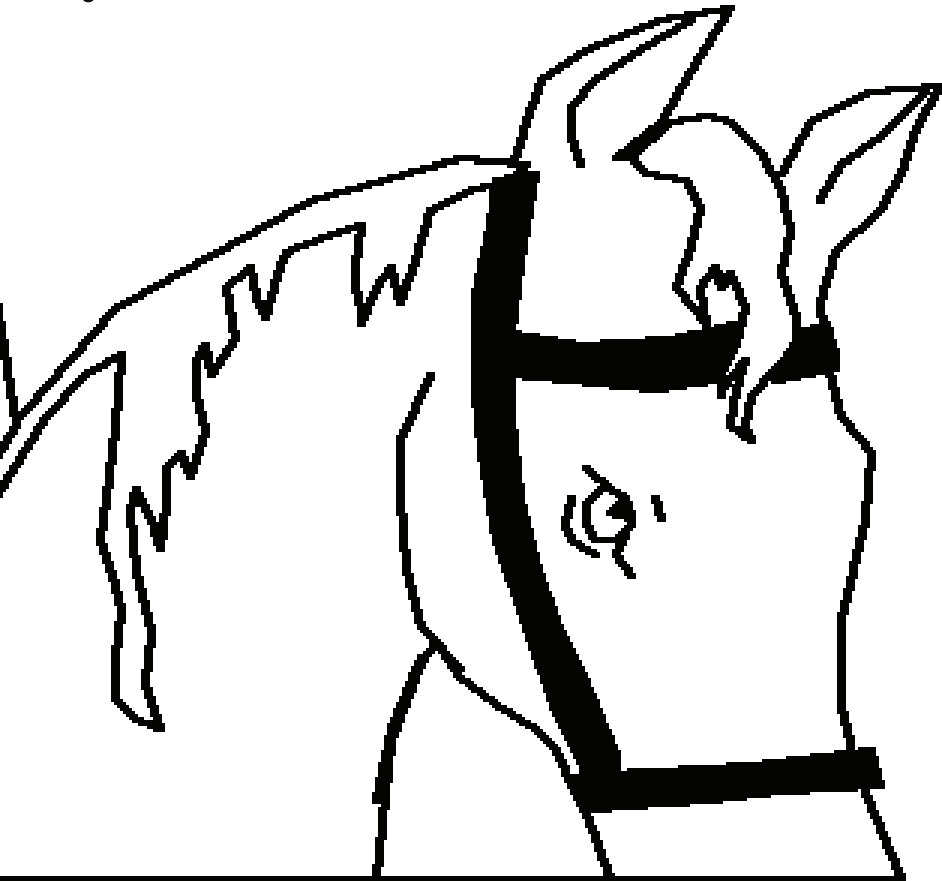


じつは、その日、ハマンは王さまに、モルデカイを首つりの刑
にするおゆるしを、いただきとうやっ^きて来たのです。首つりの
柱^{はしら}は、もうすっかりできあがっているのですから。でも、
もう少し待つことぐらい平気^{へいき}です。それよりもハマンは、
うれしくてうれしくてたまりません。自分^{じぶん}のかんがえを、
一^い気^きに王^{おう}さまに、話^{はな}し^{ました}よ。「王^{おう}さま、
その人^{ひと}に王^{おう}さまの服^{ふく}を着^きせ、
かんむり^{をかぶ}らせてくださ
い。」





「また、かれを王さまの馬にすわらせてください。そして、王
さまに仕える一ばんえらい者にめいれいして、町のみんなが、
その男の人を見るように、あんないさせてください。」
「さあ、いそげ！ユダヤ人モルデカイに、そのようにして
やりなさい！」王さまは、ハマンに、こうめいれいしま
した。

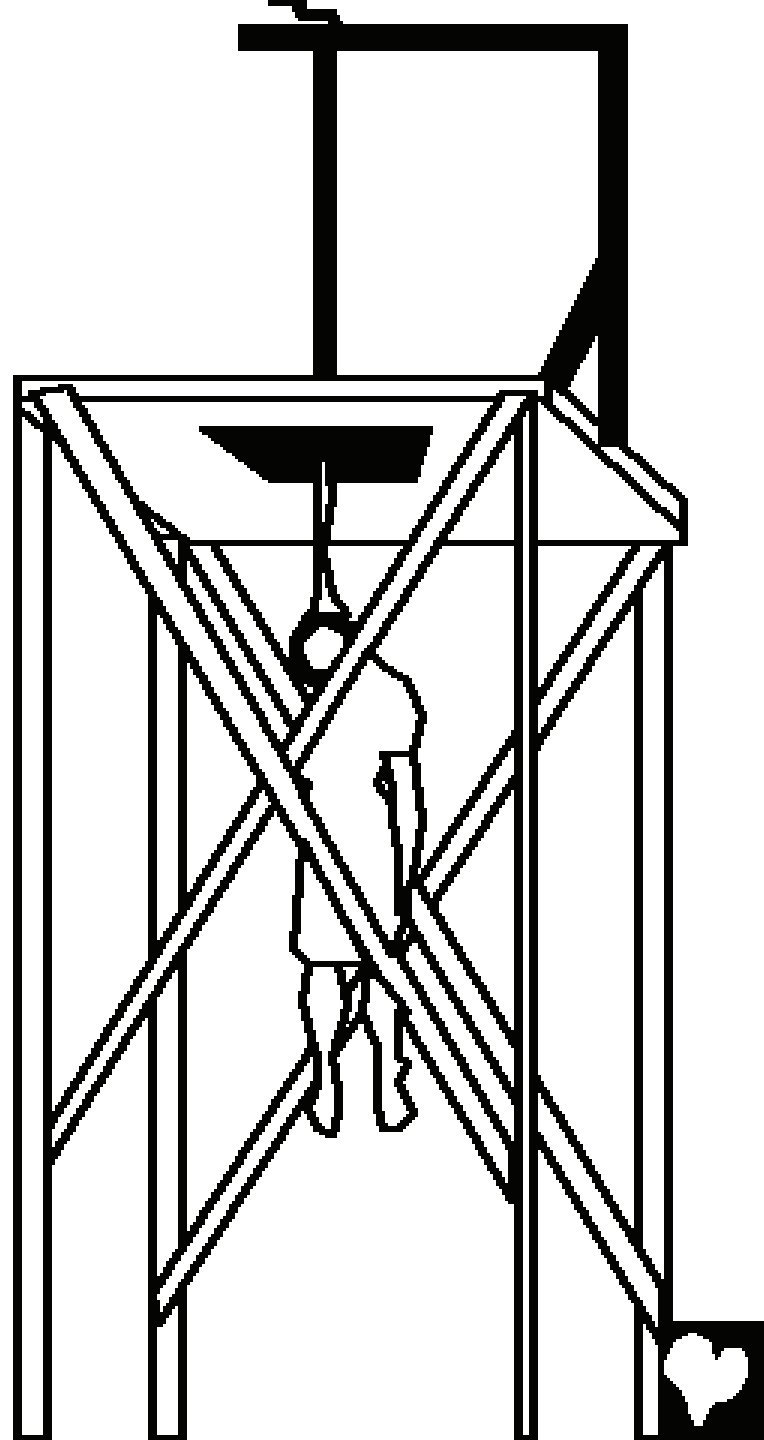


モルデカイをうやまい、あたまを^さ下げて、^{まち}町を^いまわって行く
ことになってしまったハマン。みなさん、かれはどんな^き気持ち
だった^{おも}と思いますか。きっとかれは、^{まえ}前よりも^まっとも^まっと、
ハマンが^{おも}きれいになったことでしょうね。また、ハマンは、こ
のようにも^{おも}思ったかもしれませんね。「うーん、

^まちょっと待てよ。
モルデカイは、
どうせ^し死んじ
まうんだ。ほ
かのユダヤ人^{じん}
みんなといっ
しょにね。」
って。



その日おそく、ハマひンと王おうさま
は、王妃おうひエステルかいのえん会かいに、と
う着ちやくしました。王おうさまは、そこで
エステルなんにたずねました。「エス
テル、あなたのねがいは、何なんで
しょうか。」王おうさまは、やくそく
を忘わすれてはいませんでしたね。そ
のとき、エステルおうひ王妃おうひはハマおうひンの
ほうをゆびさしましたよ。そして、
ハマわるンの悪わるだくみについて、すべ
て王おうさまに話はなしたのです。もちろ
ん、王おうさまは、すぐいに、こう言い
ました。「ハマくびンを、首けいつりの刑けい
にするんだ！」



それから、王さまは、ユダヤの人々が、自分たちで自分たちを守ることができる
よう、もうひとつの法りつを作ってくださいました。ほんとうによかったです
ね。殺されずにすんだのです。また、モルデカイは、王さまの次にえらい者
になりました。人々は、おたがいにおくり物をして、心からよろこびあいました
よ。ユダヤの人たちは、今でも決しておすれていません。神さまが、

うつくしいエステル王妃
をとおして、どのように
かれらを助けてくださっ
たかということ。



おうひ
うつくしい王妃 エステル

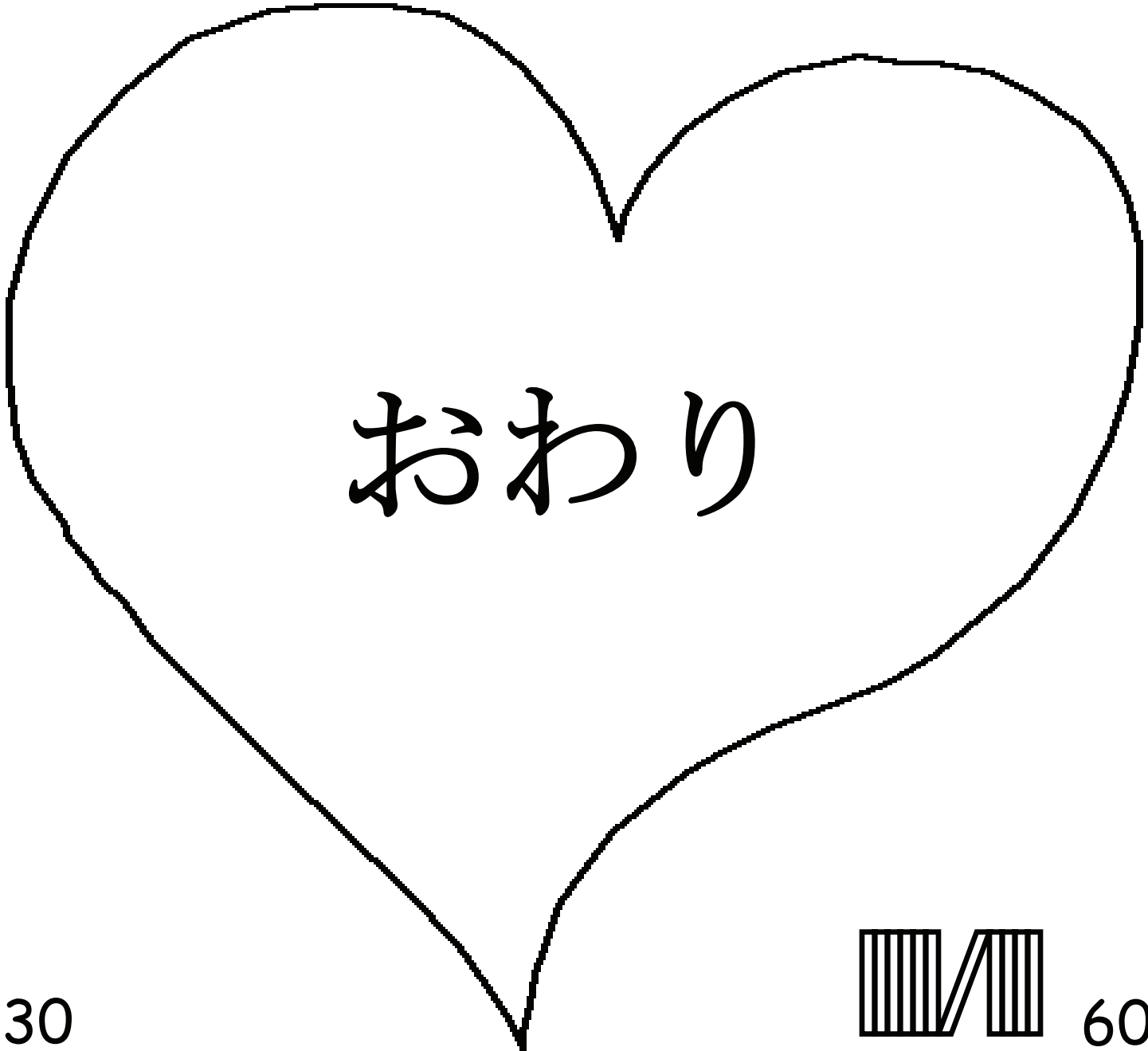
かみ み せいしょ しる
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

き
エステル記

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130





おわり

30

60



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っていらっしゃるのです。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをとも愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ じゅうじかじょう な
の世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んでくださいます。そして、いつまでもいエスさ
まといっしょにいることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ
てくださいました。そして、よみがえって、いまいま生きて
いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たす
けてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

